

# 紀州徳川家伝来楽器の 箏について

Koto of the Heirloom  
of Kishu-Tokugawa Family

野川美穂子

NOGAWA Mihoko

はじめに

- ① 箏(紀州徳川家伝来楽器コレクション)
- ② 箏(紀州徳川家伝来楽器コレクション以外)

③ 箏柱

④ 箏爪

おわりに

## 【論文要旨】

本稿は、平成20・21年度に行った紀州徳川家伝来楽器コレクション(国立歴史民俗博物館所蔵)の調査にもとづく報告である。紀州藩10代当主徳川治宝が蒐集した本コレクションの多くは雅楽器であるが、本稿では、楽箏、箏柱、箏爪を中心に述べる。国立歴史民俗博物館には、本コレクションとは別に5面の箏が所蔵され、このうち3面の調査も平成21年度に行った。これも本稿で報告する。したがって、本稿では、コレクションの箏5面([君が千歳][葉菊][武蔵野][紅雨][雲雁])、コレクションに含まれない箏3面([松風][山下水][箏(短胴)])の合計8面を対象とする。箏柱は、コレクションに含まれるもの12組、コレクションに含まれないもの1組(箏[松風]の付属品)の合計13組である。箏爪は7組の調査を行い、このうち6組がコレクションに属している。調査方法は、付属文書や目録類にもとづく伝来や由来の考察と楽器そのものの計測および観察である。楽器史研究の大きな壁の一つに伝来や由来に関する情報の少なさが上げられるが、本コレクションの場合には、楽器蒐集時に添えられた付属文書が豊富にある。加えて今回の調査では、ファイバースコープによる楽器内部の観察も行った。その結果、付属文書では知り得なかった焼印や墨書の存在が明らかになった。また、音響効果のために箏の内部に付けられるノミ目の状況、梁板を用いる内部の補強の方法なども明らかになった。調査した楽器の多くは江戸時代の製作と思われるが、一部は江戸時代をさかのぼる可能性をもつ。コレクション以外の楽器も含めると、俗箏として使われた楽器も含まれる。多くの事例を積み重ねて調査することが楽器史研究の基本であるという観点に立って、箏、箏柱、箏爪といった箏に関連する資料研究の一事例としての報告を行う。

【キーワード】 楽箏、俗箏、箏柱、箏爪、楽器学